

# 標準化公団への協力

## 実施地域

リヤド



## 1. プロジェクト要請の背景

サウディ・アラビア標準化公団(SASO)は、同国唯一の標準化機関であり、国家規格の作成と承認、及び計量・更正に関する活動を担っている。日本はSASO研究所に対し、1980年以来延べ140名以上の個別専門家を派遣し、日本の標準化制度に基づく技術移転を実施した。

## 2. プロジェクトの概要

### (1) 協力期間

1980年～2001年

### (2) 援助形態

個別専門家派遣

### (3) 相手側実施機関

サウディ・アラビア標準化公団(SASO)

### (4) 協力の内容

#### 1) 上位目標

サウディ・アラビアにおける商品の国家規格を整備する。

#### 2) プロジェクト目標

SASOの規格標準化に関する技術能力が向上する。

#### 3) 成果

- a) SASO研究所の施設・機材が充実する。
- b) SASO研究所の職員の技術能力が向上する。
- c) SASO研究所が国家規格を作成・管理する能力をもつ。

#### 4) 投入

##### 日本側

専門家(長期短期合わせて) 140名以上  
研修員受入

#### 機材供与

##### サウディ・アラビア側

- カウンターパート
- 研究所施設
- ローカルコスト

## 3. 調査団構成

JICA サウディ・アラビア事務所

(現地コンサルタント:The Economic Bureauに委託)

## 4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1998年11月

## 5. 評価結果

### (1) 効率性

専門家派遣を中心に機材供与、カウンターパートの日本研修受入れを組み合わせた協力手法は効果的であり、技術移転はおおむねスムーズに進んだ。しかし、カウンターパートの頻繁な異動、SASOの事務手続きが煩雑で計画遂行の柔軟性や迅速性を欠いたことは、円滑な技術移転の進捗を遅らせる一因となった。

また、日本人専門家とカウンターパートとの間のコミュニケーションが必ずしも十分でなく、SASOにおいて、一般職員レベルと中間管理職レベル、または部署間で本協力の目標や内容についての認識に違いがあったことも、SASOという組織に対する効率的な技術移転を阻害する要因となった。

### (2) 目標達成度

長期にわたる技術協力によって、カウンターパートの規格作成・管理手法、測定・検査などに関する能力が向上し、研究所の専門性も高まった。カウンター

パートは専門技術のみならず、計画立案やスケジュール管理などのノウハウも学ぶことができた。

しかし、本評価において実施したアンケートからは、本協力の目標、社会経済への影響などについての理解は管理職レベルに限定されており、一般職員はこれらについて十分に理解していなかったことが判明した。

### (3) 効果

本協力の結果、サウディ・アラビアにおいて、製品の安全や品質に対する消費者の信頼性は向上していると推測されるが、より詳しい社会・経済的影響については、今後のさらなる調査が必要である。

### (4) 計画の妥当性

本評価で実施したアンケートによれば、多くのカウンターパートが、本協力は非常に価値があると回答しており、妥当性は高いと思われる。

なお、今後の協力希望分野として、検査技術そのものよりも検査方法の考案面での指導や、SASO内の指導者育成を求める声が聞かれた。

### (5) 自立発展性

本評価で意見聴取したカウンターパートの過半数が、技術移転の成果の自立発展性は限定的と回答した。専門家からの日常的な技術指導や日本での研修への参加を通じた技術力の向上が直接昇進・昇給につながらないことが、継続的な活動の実施へのインセンティブを失わせている要因の1つである。

## 6. 教訓・提言

### (1) 教訓

協力対象の部署のみならず、他の部署も含め、組織全体で技術協力についての十分な意思疎通を図るべきである。特に、プロジェクト目標や受益者への効果等について、関係者間で相互理解を確実に図ることが必要である。

### (2) 提言

今後、SASOでは、アナログ機材からデジタル機材への移行などが必要になると思われる。我が国としては、現在SASOにおいて実施中の「第三国集団研修「家庭電気製品の安全性」と連携をとりつつ、専門性の高い短期専門家の派遣などを通じ、SASOの一層の技術力向上を支援していくことが望ましい。



カウンターパートに検査機器の見方を指導する専門家



カウンターパートに試験機器の操作方法を教えている